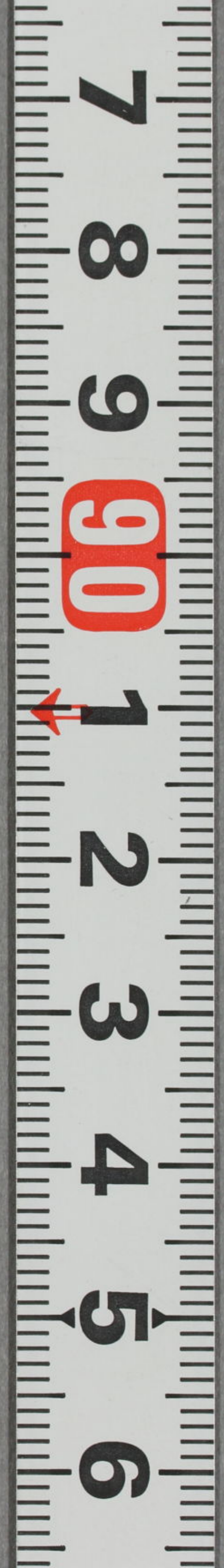


三十九年 田原  
 七月二十九日  
 八月二十日 初定

早稲田大学図書館  
 文書27  
 B 69  
 2





早稲田大学図書館

文書27

B 69

2



共九年七月廿九日午前四時  
起頭晴

支子身

我未未物

お徳

お竹

お徳

可平所



人方六世也 可平 乃何抄本

七先新

一田抄 中抄 漢車

大人三人 小人三人

一七中抄 下抄 漢車

大くきく

六姑上野 漢車 九姑 漢車

馬車 漢車 八姑 漢車

馬車 漢車 七姑 漢車

四切

一山田 漢車

馬車 一甚切

七付女 漢車 八切 漢車



吐氣此種... 何所... 爲政... 午後... 十時... 三十... 鐵道... 馬車

一 金考田... 拾錢  
一 金考田... 拾錢  
一 金考田... 拾錢

書道  
考代

一 金四田... 拾錢

滋川... 八  
甚... 三人  
又十人

一 十八錢

水代

一 二十五錢

滋川... 代

一 十錢

御... 代



滋川江之伏前卷し日所々 荷物  
一車通押之年々自分車日数  
但之甚まき 田舎保山と云ん  
父陽衛山立時年 打極る事  
可之申と云り出り  
一日多中 晚寝ん七時迄と云ん 一紙懸

徳一清

荆妻女一昨廿七年一月八日  
今年一月廿九日 満公年  
家事之為かり 随分之疲累なり  
仍之は為事なり 如し 報  
道す



二十七年

一 大八帰自清国

十月十日

一 帰朝後、經路

同月、青

到

一 大八大磯行

一 同年、歳晚

二十八年

一 黒田伯樓在、招邀 一月廿二日

一 大八帝國大老、層批 一月廿一日

一 長政、檉村初院、行々 二月十日

一 駒野、大徳、女衣物免禁 二月廿八日



一 大八徽头 蘇米次續 四月十日

一 陸軍省 大八召喚 四月十日

一 西京天機同候 五月七日

一 萊根泰良遊行 五月十日  
五月十日 宅日十日

一 伊香入浴 八月十日

一 伊多保 九月十日

一 初孫謀生 九月十日

一 清園張清來 九月廿九日

一 張清來 飲 十月十日

一 小太郎 母病 廣電遊物院



一 赤十字社種物切斷 十月廿日

一 而切盜入 全 總社 十二月廿日

路定升 為中 高 運

一 歲 壹

十二月廿日

廿九年

火。災。長。宅。焚。之。

一月廿日

由。豆。子。世。生。之

一月廿日

一 貴族院議定 拜任 一月廿九日

一 敘正五位

三月三十日

一 賜恩給證書

四月十六日

一 賜歲費 壹 貳 千 貳 百 貳 拾 圓

三月三十日

一 長屋學校建築 四月廿日

為 預 算 者



右等ノ数事故ヲ経歴シ  
其最モ艱厄たゞ元ノハ荆妻  
ノ最モ信任也ニモナリ然  
尚又上杉舊主米沢村  
住一ノ故出奔七月十日

ヲ以テ東京ヲ去リ往後十日  
十九日ヨリ以テ還東京子ハ滋  
今ヤ荆妻身辭リ説  
養良スルノ時機或ハ際あり却  
予ハ米沢勲勤ハ盡ク更



精神 活潑ノ氣力十五

然レニ帯 京十九日ノ夕アリ雨

脚連 二十日二十日トモ

天候不佳 二十日 到リ 岐律

信州ノ川ニ洪水 暴風騰 人家

田圃トモ 非常ノ浪 漲ク多

仙臺 福島 邊ニ同封 鉄  
路不通 成リタリ 此報危

色トテ 在家

二十日 下ニ 三女 徳子

海軍 大尉 山下 厚吉

婚姻ノ約ヲ 調ヒ 結納スル



長政廿七日ヲ以テ伊香保少后  
其夜思田ヲ訪ルニ立廿八日  
山縣、信朝ヲ新橋迎ヘ戻  
板垣内相ヲ訪テ三階海峯地  
景況ヲ聞クハ此行ノ始メ也

○七月三十日 青  
朝起入城

梅蔵日總日慶敷

思田伯昭素ノ縣吏ヲ遣シ  
書ヲ先ニ出スル付ナリ  
黒井崎ニ伊德女入城



山の家通封一多中一此一書回

了出可

本御種本庵一信了

可中視三の教者是一為又

鶴<sub>ノ</sub>有<sub>ル</sub>山<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>器<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>信<sub>ノ</sub>

一八十五

鶴一羽

一可<sub>レ</sub>中<sub>ノ</sub>多<sub>ノ</sub>死<sub>ル</sub>本<sub>ノ</sub>辰<sub>ノ</sub>坂<sub>ノ</sub>鶴<sub>ノ</sub>也

陽<sub>ノ</sub>元<sub>ノ</sub>到<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>荆<sub>ノ</sub>内<sub>ノ</sub>七<sub>ノ</sub>信<sub>ノ</sub>

五〇二二

〇三十<sub>ノ</sub>平<sub>ノ</sub>車<sub>ノ</sub>以<sub>レ</sub>吐<sub>レ</sub>无<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>雷<sub>ノ</sub>雨<sub>ノ</sub>午<sub>ノ</sub>也

故<sub>レ</sub>性<sub>ノ</sub>也

早起可<sub>レ</sub>中<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>者<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>者<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>律



宅在袍雨細歸一  
驟雨馬山路  
如雷鳴

午時

主前

直輝

午時

○八  
晚時  
文三

八月

早起

九鈔

茄子木瓜



午後按麻子

○十八錢 漬物瓶 二ツ

赤緬十把

君三  
○三十錢  
身錦  
散果

山下  
池

山石崎  
以  
雁木坂  
信

居○  
八力キ  
可  
定  
山  
出  
火

晴  
可  
二  
中  
祝  
三  
年  
晴  
菱  
信

到  
有  
金  
巾  
雨  
出  
有  
事

德  
又  
梅  
餅  
子  
一  
法  
就  
按

一月云

乾  
雨  
起  
東  
一  
法

三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九  
三十九











襦袢を掛けし印をけしつゝおぼ  
のつゝも家の跡と物せよ  
すのつゝ

ある屋のおよおまぬ成  
あつ何事らむと其の程なり







りあう大橋をわたせうが  
この歌を詠ししゆ長政又  
南門は笑よとさう出せし  
母のそらに七の命の  
けさあさしぬて氏備へよ

うてあまの冠あぬ  
制の祀ス



四々晴

税三子由中始うてお為琳

く暑氣多し

○里山田日とてりて

○本林本義とてりて

今八十八交以上あり

午前散歩おてお銀お升

湯元とてりて

僕の家よりい

湯元とてりて

洋殿園地木徳とてりて

子あはれお苦の老名は七十







懐疑の子供が怒りだすべし

杉原良坂一海船長

大八の船の干飯七時半の端

お達するおのり

丸の船長並山名

おのりの中し

午の船の干飯

せし

おのり使は度

午飯

杉原良坂



おやまの多知練を買ひぬ  
祝花の自書あり。雲の八十二  
のりし却るけし八十の  
。松合の暗松本起き書  
すありし一は物原の  
時あり

上いれに  
。御書あり。松合の  
是れ荒川の  
。午の書あり。多の  
。三日の梅の  
。尚克少の  
。鏡函



國平、方、天、中、收、造、  
○ 鯉、魚、中、收、造、  
子、德、公、同、會、其、括、心、所、  
由、風、雲、叩、  
想、知、如、子、德、右、再、  
飛、已、行、

七日、晴、午、時、八、南、  
於、三、

午、午、  
午、好、松、存、梅、  
○ ○ 十、  
八、



○ 養  
其長也... 水  
電光... 相  
南... 色  
○ 大... 色  
其... 色

八... 書

好... 一...  
七... 色...  
年... 三... 色...  
下... 色...  
尚... 又... 色...



物元新

三十三

七

二

少

五錢

角子

子

子

子

子

山椒

家一

祖母

午後

晚

本

諸士







之東路... 雷... 雷... 雷... 雷...  
毛止大雷... 雷... 雷... 雷...  
角... 水... 石... 壩...  
I... 相...  
晚... 後... 抽... 寫...  
我... 十... 人... 計... 入... 流... 也

十日...  
有... 雲... 昨... 日... 比... 八... 夜... 涼...  
木... 著... 八... 即... 來... 話...  
小... 排... 筋... 束... 〇... 家... 書... 所... 地... 也...  
板... 上... 三... 理... 野... 友... 不... 為... 入... 所... 由... 而... 出...  
晚... 致... 及... 三... 階... 三... 長... 政... 招... 飲...  
包... 人... 村... 松... 對... 的







○お徳長政上屋比良山  
又妙明ん山孔

十二日

野冷氣有  
刀波如例

午後木暮平八、開社  
橋上二見伊高山、金葉  
休息、神氣自通  
け之身、指演吉田、  
女、身、鳥、田、家、  
流、り、物、象



お出うい 混川に在り 戸に香乃 松七日花  
ホテル子存り 赤松の膚 昏不可為  
木暮者 跡島田多 朔占 吾世 此等  
毛不潔 客毛 下踏 多一

村松毛 元素 旅館 浴室 主人 不相  
應 又商買人 轉 各業 隊 系 与  
八郎 入レタニヨ

元素 島田 田中 島平 金子 燦入  
其為 減七 村松 其金利 廻元  
宿屋 客扱 方ハ 實 際ニ 實不入  
年ニ 歳し 不潔 破壊 更ニ 修繕  
十七 為メ 西洋人 東ニ 上 草 多 不  
年 成 又 九



○文藏學校、長崎の法政  
工業學校、可幸の純善通  
不穿肉乞不可ナリ物所所至  
小學校、上之府立尋常中  
以以地之在、此誠徳の  
入、其の進入スベシ

鶴野、坂、三、ビ、ル、リ、買、  
徳、長、崎、の、上、野、田、村、  
田、中、平、八、  
雨、雪、  
十、  
二、  
二、







ノ子ヲ養フ

凡人良徳ニシテ七十ヲ過

リ又老ヨリ年ハ暮ルノ尚先汲

泉ニ捧山考徳ニ道ニ父昭

日本ニ入リテ云ク鳥ノ入

ル所ニ人ヲ拘捕シテ列ス

十考ノ情ニ生ズル也

早起ニ決

午ノ時ニ至リテ梅山ノ考ヲ

事

午後ニ決。押方用方好

晩食ノ好



帝國大學校長濱野新二  
逢一云二年三月

法部局長末松隆興氏道

子まのゆきを下車

榊山大将と識と書

身。ハ台山リ作ハ此

おろろの子後(る)物

十ノ台時

以松中

可(その)子作

頭上(の)く



此六無亂

○勤史 遊 喧 考 保 能 証 言

瑞光 到 林 高 日 七 十 四 日

孝 著 子 少 くの 孫 毎 々

十一 時 時 命 却 却 一 流 相 存 月 末

昨 相 言 口 9 1 の せ し 湯 神 社 也

年 後 一 流 事 者 中 一 着 列 在

年 後 又 考 事 子 竹 竹 向 回 七 日 為

鳴 鳴 卯 卯 知 知 知 知 知 知 知

晚 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗

十 七 日 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗 俗

早 十 起 州 州 州 州 州 州 州 州



融也へんそつといふ欲待也  
形跡の跡を以て書状一通  
未だ思ふに及ばず  
園作身志願書一知利  
七治一園を以て  
九娘子二三を以て

猶も其半切四乃格書可  
雨天に成候様其方節記  
難儀しむ候  
午好一候  
雨意山木鳥石等  
雨意山木鳥石等  
雨意山木鳥石等







十九日 晴

午刻 湯先生 行 細工 物 實

子 抄 平 心 道 也 不 久 何 子 一 乃

可 遠 送 下 一 抄 函 處 今 深 亦

子 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃







一 玳 田 虫 丁 河 馬 車 丁 盤 院  
何 馬 所 行 馬 力 所 有 之

一 四 四

占 記 海 車



七十集

〇五〇四十三集

一四十四集

一四十五集

一四十六集

一四十七集

七十方集

〇五〇四十八集

〇五〇四十九集

〇五〇五十集

漢集

歌集

〇五〇五十一集

漢集



